

年頭のご挨拶

全国都市職員災害共済会
会長（阿久根市長）西 平 良 将

令和 8 年の新春を迎え、全国の都市職員並びに組合員の皆様に、謹んでご挨拶を申し上げます。

平素より、本会の火災共済・自動車共済に対しまして、温かいご支援とご理解を賜っておりますことに心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマの下、大阪・関西万博が開催され、国内外から大きな注目を集めました。持続可能性、多様性、テクノロジーの活用など未来社会に欠かせない課題が幅広く紹介され、希望とともにテーマと課題を共有する貴重な機会となりました。

一方で、大分県においては 180 棟余りが焼失する大規模市街地火災が、岩手県では平成以降で最大規模となる林野火災が発生しました。さらに静岡県では国内最大級といわれる竜巻が発生するなど、各地で甚大な被害が相次ぎました。加えて、夏から秋にかけては記録的な大雨や台風などにより、家屋の損壊や河川の氾濫による浸水など、多くの都市に深刻な影響を及ぼしました。

災害により被災されました都市並びに都市職員の皆様に、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

近年では、地球温暖化に起因する気候変動の深刻化により、地域社会を取り巻く災害リスクは一段と厳しさを増しております。また、大雨や台風など自然災害が多発し、家屋の修繕費や自動車事故に伴う修理費・事故対応経費の高騰などにより、共済金の支払額が増大し、共済事業の収支等にも影響が生じているところであります。

こうした状況を踏まえ、昨年 8 月、厚生労働省の認可を得て、掛金の改定を行い、令和 8 年 4 月 1 日より施行することといたしました。

都市職員相互の助け合いの仕組みを一層強化し、万一の災害から皆様の生活をお守りするため、組合員の加入促進や未加盟市への加盟勧奨を積極的に進めるとともに、共済事業における運営基盤の強化に努めてまいります。

今後とも、組合員の皆様への安心と利便性の向上を目指し、共済事業の更なる発展に向けて全力で取り組んでまいりますので、引き続き変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、全国各都市のご発展と、都市職員並びに組合員の皆様方のご健勝を心より祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。